

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0175100288		
法人名	有限会社 なごみ		
事業所名	ライフインなごみ		
所在地	紋別市落石町3丁目42番地の5		
自己評価作成日	平成26年1月21日	評価結果市町村受理日	平成26年3月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様と職員が共に健康で幸せに過ごせるよう努めています</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL [/index.php?action_kouhvou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0175100288](http://index.php?action_kouhvou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0175100288)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市本町5丁目2-38
訪問調査日	平成26年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>元学生マンションを改修したライフインなごみは、1階に事務室、3・4階が1ユニットずつのグループホームになっています。介護の基本理念は信頼と思いやりの心をもち、共に豊かに生きること、そして利用者や家族の役に立つことの3本柱を意識して、見守りながら穏やかに日々の暮らしを支えています。町内会の行事に参加したり散歩や清掃での挨拶を交わしたり、建物前を除雪してもらうなど地域に溶け込んでいます。外出支援に力を入れ、外食や初詣・ラベンダー畑へドライブへと出向いています。利用者本位のケアを心掛け、出来る役割を発揮してもらいそれに感謝する等、楽しく過ごせる日々を目指して支援しています。施設長・管理者・職員は自己評価や外部評価を振り返る良い機会と捉え、反省と確認することでケアの実践に取り組んでいます。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	すべての職員が理念を理解できるよう、理念の見直しも行い、ミーティングではケアに繋がれるように話し合っています。	昨年7月に見直した理念を掲示し、ミーティングや日常のケアの中で、職員一人ひとりが実践に繋がるよう取り組んでいます。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りや敬老会等の参加。社協主催のふれあい広場やしめ縄作りへの参加。町内の方からイチゴ狩りに招待していただいたりしています。	町内会に加入し、除雪をしてもらったりイチゴ狩りや夏祭りに参加をして交流をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者と職員はキャラバンメイトの講習を受講し活動しています		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方や他事業所の方の意見や情報を職員ミーティングにて話し合いサービスに反映できるようにしています	2ヶ月ごとに利用者・家族・紋別市・地域住民・同業他社事業所が参加して、状況報告・意見交換等を行い、議事録を作成して家族に配布、事業所の理解とサービスの向上に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用状況報告を毎月おこなっている他にも運営推進会議に出席して頂き、ご指導頂いております	運営推進会議のメンバーでもある介護福祉課・地域包括支援とは、待機待ちや空室情報などの情報交換を図る協力関係が出来ています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新人研修やミーティングにて身体拘束をしないケアについて話し合われており、日中はもとより深夜においても、物色行為や歩き続ける事に対しても、抑制せず安全を確保する事に努めています。	管理者は新人研修で身体拘束・虐待防止の指導を行い、またミーティングでも日々のケアで職員がお互いに確認しながら取り組んでいます。夜間のみ玄関を施錠しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者様の身体のアザなどはいつ何処でできたものかを、すべての職員が把握するようミーティングで話し合われています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、日常生活自立支援制度を利用されている方がおり毎月対応しています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時にはご家族様やご本人に同席して頂き、疑問点等はいつでも問い合わせして頂き説明しております。改定等は、説明会を開催したり文書を送付しております		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様にはアンケートにて要望の確認を行ったり、個別に職員が聞き取りを行い改善に努めております	家族の面会時や電話で利用者の状況や金銭報告を行い、何でも言える関係づくりに努めています。出された意見要望は、ミーティング等で検討し報告する取り組みが来ています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット毎、月2回のミーティングや管理者と職員との個人面談・施設長と職員の個人面談等を行い意見を述べる機会を増やし、運営に反映させています	管理者は、毎月のユニット会議と全体会議の中で、施設長との個人面談などで待遇向上や意見要望を受け止め、運営に活かすよう努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の面談を行い要望・希望を聞き、食事代の見直し等をして雇用の改善を図っています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会に参加できるよう配慮し、スキルアップに努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	施設実習の受け入れを行い、施設間の対応の違いや気づき等、再確認できる場としています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に何度か訪問し希望、要望等をお聞きし、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なごみの基本理念やここがどうゆう所かを説前しご家族の不安な気持ちが和らぐよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現状をお聞きし、ご家族の気持ちとご本人の気持ちを優先し必要と思われるサービス事業所の紹介をしております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理、食器洗い、洗濯物の片づけ等、できる事を一緒にいき必ずお礼の言葉を述べて感謝の気持ちが伝わるようにしています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	体調の変化や精神状態の変化等がある時は御家族と連絡を密にし今後の対応を検討したり、通院に対応して頂いたりしています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの関係が途切れないように年賀状を書くアドバイスをしたり、港に漁船を見に行ったりしています。	買い物や馴染みの理・美容室への支援等、利用者のこれまでの暮らしの継続への支援に努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入って会話を取り持ったり、その方に合ったゲームで対応しており、全員が楽しく過ごせるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時にはなごみとの関係はこれからも続いて行く旨を必ずお伝えし、入院先や他施設へお見舞いに行っております		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は毎日の生活に満足して頂いているかを考え、何気ない言葉や、表情から何か変だと感じた時には、リーダーに報告し解決に向けたケアを提供しています	これまでの生活歴を把握し、日常、利用者が発する言葉や表情から思いや希望、要望の把握に努め生活記録に記入、可能な限り実現に向け職員間で検討し取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメント情報はもとより、入居後に面会に来てくださる、親戚や友人の方からも情報を頂き把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調や気分にも十分配慮し、気持ちよく達成感が得られるように努めています		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月2回のミーティングでのケース検討や面会時にご家族の要望をお聞きし作成しています	利用者、家族の意向を基に、意見を反映し1年以内に介護計画を作成しています。変化時には状況に応じ介護計画の見直しを図り、状況に即した介護計画を作成しています。個別記録にケアプランが入っており職員が把握できる支援がされています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は出勤時には個別介護記録を読み、今の現状を把握しケアにあたっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居時や退去時のお手伝いや、荷物の保管。市役所の手続きの介助。その他ご家族の方が困っている事を解決できるように取り組んでいます		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内回覧板や紋別市広報等からの情報をもとに、博物館・図書館・公園・とっかりセンター等へ出かけ楽しんで頂けるよう支援しております		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前からの医療機関を継続しています。状況に応じご家族やご本人と相談し医療機関を変え健康が維持できるよう努めています	希望するかかりつけ医を基本に家族と事業所が連携し、適切な医療が受けられるよう支援しています。週1回の訪問看護師による健康面の指導と援助が行われています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師さんが訪問までの1週間の出来事を記録にて報告し、急病や軽いけが等は電話にて指導して頂いたり、治療が必要となった時は救急病院を受診しております		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には看護師さんへ直接ご本人の情報提供を行い、安心して入院できるようにしています。1日も早く退院できるよう医師にもお願いしております。管理者は医療連携推進事業の活動もしており医療との関係づくりに努めています		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態の変化にあわせご家族や主治医との情報交換を密に行い、今できる最前の支援に取り組みましたが、地域医療が整っていないため最期の看取りには至っておりません	入居時に医療連携、重度化に関する指針を基に説明し、同意書を交わしています。状態に変化が見られたら話し合い、対応する体制を整えています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応の訓練を定期的に行ってはいないが日常の変化や急変等をミーティングで話し合いされており、緊急時の対応はできている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っており、ミーティングにて振り返りも行っている。近所のグループホームとも協力し合えるように話し合っている。	日中、夜間を想定した避難訓練と、年2回の自主点検を行っています。又、消防署主催の訓練にも参加しています。職員の多くが事業所近くに住んでおり、直ぐ駆けつけることの出来る体制になっています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日ごろより言葉づかいには注意し、丁寧語を使い尊敬の気持ちが伝わるよう支援しています。	職員は利用者を年長者として敬意を払い、言葉づかいや対応がプライバシーを損ねない介護を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の希望や好みを把握し、自己選択しやすい方法で問いかけるようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	急な外出の要望にも対応できるよう、その時のスタッフで話し合い作業しています。どうしても無理な時は事務所や他ユニットの協力を得て希望に添えるようにしています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員はお化粧道具が何時でも使えるように手入れしたり、髭剃りの準備をしています。首にスカーフを巻いたり、コーディネートのアドバイスをしています		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片づけは毎日の日課となっております。毎週土曜日には買い物に行き食べたい物を選んで頂き、器でも楽しめるように工夫しています。手作り創作おやつも作ります	献立はユニット統一し、準備や片付けなど出来ることを一緒に行っています。又、週1回の買い物時に好きな物を選んだり外食、出前を取り入れ、食事が楽しみになるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好みを把握してはいますが、何が飲みたいか確認し提供しています。口渇感のない方にはその日の状態で提供するタイミング等を考えながら支援しております。体重や血液検査の結果等、健康状態は配慮しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に洗面所へお誘いし口腔ケアをしています		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は一人一人の排泄パターンをほぼ理解しており、快適に過ごせるよう支援しています	職員は排泄チェック表を基に利用者の排泄パターンを把握して誘導することで、トイレで排泄できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表を使い便秘になりそうな時は下剤の調整を行う。朝に牛乳を飲んで頂いたり、すりおろしリンゴ・ヨーグルト等で予防にも取り組んでおります		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に曜日は決めています、その日の気分や要望により変更をしています	週2回の入浴を基本に本人の希望や体調に応じて支援しています。又、羞恥心への配慮にも努め、利用者とのコミュニケーションの機会として取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の希望や状態により自由に休息場所を変更して頂いております。リビングでの安眠を希望される方には小布団や毛布を準備し快適に過ごせるように支援しております		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院記録に副作用や用法が記載されており共通認識で確認しています。薬の変更があった時は特に状態の変化が無いかに注意し、その内容が共通認識できるよう申し送りしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	催し物や地域のイベントへの参加、毎日の清掃やゲーム・カラオケ等、楽しい時間が増やせるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等の外出には、すぐ対応するように工夫しております。家族の協力を得て隣町までお見舞いに連れて行っていただいたり、社協のボランティアさんに協力して頂き、しめ縄作りにも参加しています	玄関先でのひなたぼっこや散歩、買い物、弁当を持ってのピクニック、地域のイベント等、積極的に外出を行っています。又、家族の協力を得て外に出る機会を作っています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談し、希望されている方には所持して頂いております		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は自由であり、希望した時は職員がダイヤルし手渡している。手紙の代筆や代読、ポストへの投函も一緒に行っています		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一年中、居間・廊下・洗面所・居室には観葉植物。春夏秋には玄関やリビングのテーブルに季節の生花を飾っています。みんなで作成したちぎり絵を飾ったり、季節のパッチワークを飾ったりしています。夏には風鈴の音色で心地良い風を感じられるよう工夫しています	4階建ての3・4階が事業所で、1階ロビーに談話室を設けています。共用空間には観葉植物や季節の生花、パッチワーク、利用者の作品等が飾られ家庭的な雰囲気で居心地良く過ごせるように工夫がされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様が入り替わる時はソファの配置を変えたりリビングのレイアウトを変えたり全員が仲良く過ごせるよう工夫しています。リビングからみえない廊下にもベンチが設置されています		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や趣味の物を自由に持ち込んで頂き、満足できる空間になるようアドバイスをしています。物が多く居心地が悪くなった時には保管場所の提供もしています	居室には馴染みのタンス、ソファなどの家具や趣味の手作り人形等が置かれ、本人が安心して過ごせる空間作りをしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に応じ案内板をつけたり、表示を変更したりしています		